

大阪大学環境報告書

地域に生き世界に伸びる

2008









目次

- 3 大学概要
- 4 総長からのメッセージ
- 5 環境への考え方
- 6 環境目標と実績
- 7 事業活動の環境への影響

環境パフォーマンス

- 8 省エネルギーと地球温暖化防止への取り組み
- 10 廃棄物削減への取り組み
- 12 化学物質の適正な管理
- 13 ・・・省資源への取り組み

その他の取り組み

- 14 ・・・安全・安心への取り組み
- 15···教育·研究·課外活動
- 16・・・学内での取り組み
- 17 … 地域社会への取り組み
- 18 … おわりに
- 19 …・環境省 「環境報告ガイドライン (2007年度版)」 対照表

編集方針

大阪大学の環境保全活動を体系的にまとめ、定期 的に公表することで社会に対し説明責任を果たし、 利害関係者(ステークホルダー)の理解を得るととも に、大学構成員全体で協働により環境負荷提言活動 を促進するための教育ツールとして活用することを 目的としています。

本報告書は、「環境情報の提供の促進等による特定 事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する 法律(環境配慮促進法) | に基づき、環境省の「環境報 告ガイドライン(2007年度版)」、「環境報告書の記載 事項等の手引き」(第2版)を参考に作成しています。

对象組織:国立大学法人大阪大学

対象範囲:吹田キャンパス、豊中キャンパス、箕面キャンパス* 対象期間:2007年度(2007年4月~2008年3月) ※箕面キャンパス(2007年10月~2008年3月) 参考にしたガイドライン等:

環境省「環境報告ガイドライン(2007年度版)」 「環境報告書の記載事項等の手引き」(第2版)

連絡先

大阪大学施設部管理計画課

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1

TEL 06-6879-7137

Email sisetukanrihozen@ns.jim.osaka-u.ac.jp

URL http://www.osaka-u.ac.jp/

発行年月 2008年9月 次回発行予定 2009年9月

校 名 国立大学法人大阪大学

所 在 地 大阪府吹田市山田丘1-1

1931年(昭和6年) 設 1/

総 長 鷲 田 清 一 (2007年8月26日~)

職 員 数 教員:2,846人

> 教員以外の職員:2,299人 非常勤職員等:3,093人





学部学生:16,339人 学 生 数

大学院(博士前期および修士):4,757人

大学院(博士後期および修士):3,284人

外国人留学生:1,390人



キャンパス 豊中地区:445,851.08m²

吹田地区:996,659.32m2

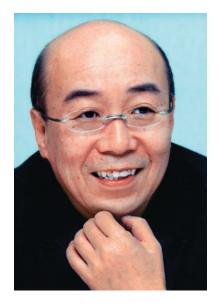
箕面地区: 145.125.08m²

中之島地区: 1,000m² その他: 80,248.06m²

11学部、15研究科、5附置研究所、 部

20学内共同教育研究施設、3全国共同利用施設等

豊かな人材を育成し、教育・研究活動を通じて 持続可能な社会の実現を目指します



国立大学法人大阪大学総長 强田清一

大阪大学は、「懐徳堂」の自由な学問的気風や「適塾」の先見 性を精神的な柱として受け継ぎ、1931年(昭和6年)に帝国大学 として創設されました。以来、70余年の歴史を刻みつつ、常に 世界最先端を目指した教育研究を実践し、かつ人類の知的水準の 向上に寄与し続け、教育研究活動を通じて社会の安寧と福祉、世 界平和、人類と自然環境の調和に貢献して参りました。

今日の我々の生活は、エネルギー資源をはじめとする各種資源 の利用により成り立つ資源消費型のライフスタイルです。しか し、経済・技術の発展や生活水準の向上に伴い、これら資源の利 用は増大し、環境問題をはじめとする様々な問題は、地球規模へ と拡大しています。従来の大量生産・大量消費・大量廃棄の社会シ ステムから、循環型の持続可能な社会システムへの変革が、今ま さに求められています。

現代社会が抱え込む種々の問題は、かつてのように政治・経済 レベルのみで対処できるものではなく、また特定の地域や国家に 限定して処理しうる問題でもありません。世界規模での、あるい は地域における、文化への根源的な問いかけが必要です。そし て、それを認知し実行できるような、専門的知識・広い見識・柔軟 なセンスを身につけた人材を育成し輩出することが、大学が果た すべき重要な役割の一つであると考えます。

大阪大学では国立大学法人として、教育研究活動を通じてその 成果を社会に還元し、国民と社会の負託に応えていく為にも、 「地域に生き世界に伸びる」を基本理念に、社会的貢献をはじめ とする責務を果たすべく、環境保護推進活動を重要活動の一つと 位置付け、持続可能な社会の構築を目指した取り組みを、今後一 層進めて参ります。



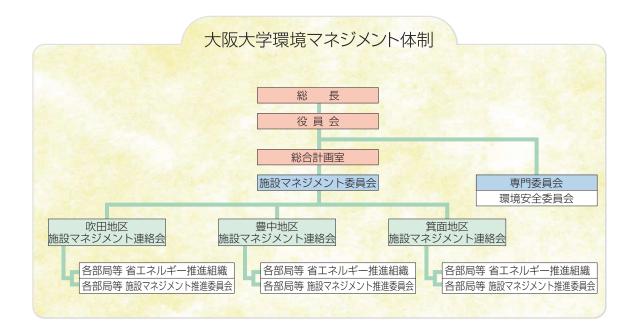
大阪大学では、環境方針に基づき 環境保全活動や人材育成に取り組んでいます

環境方針

大阪大学は、常に新たな試みに果敢に挑戦し、「教養」、「デザイン力」、「国際性」の3つの教育目標を柱に、「地域に生き世界に伸びる」を基本理念として、社会の安寧と福祉、世界平和、人類と自然環境の調和に貢献しています。また、大阪大学は、今までにも種々の分野で世界水準の研究者の養成を担ってきましたが、今後は地球環境の保全と回復が人類共通の最重要課題の一つと認識し、個々の研究シーズを地球、社会、人間という3つのシステムのサステイナビリティを高めるという方向づけに沿ってグランドデザインとして形づくることを目指します。このグランドデザインのもと、循環型社会システムの構築や環境リスク管理に寄与できる人材育成にも積極的に取り組んでいきます。

そこで大阪大学は、様々な教育・研究活動が行われているキャンパス内において、以下の環境保全活動を積極的に推進します。

- 1. 教育研究をはじめとするあらゆる大学活動において、環境に関する法規等をその法の精神に則 り遵守し、環境保全に努めます。
- 2. 教育研究をはじめとするあらゆる大学活動において、地球温暖化対策の推進、グリーン購入の推進、エネルギー使用量の削減、廃棄物発生量の削減及び資源のリサイクルに努め、「大阪大学循環型社会システムの構築」を地域と連携して取り組み、地域社会の模範的役割を果たします。
- 3. 環境負荷の少ない緑豊かなキャンパス環境を整備するとともに、地域社会との連携を通した「キャンパス・サステイナビリティ」の実現に努めます。
- 4. 環境保全活動を積極的に推進するため、本学の全構成員の認識のもと、その参画を促し、継続性のある環境マネジメントシステムの確立を目指します。
- 5. 周辺地域環境との調和・共生を図るため、周辺地域を含めた環境関連情報を定期的に把握する とともに、それを積極的に公開し、環境保全の取り組みへの理解と協力を求めます。



目標達成に向け 今後も環境保全活動に努めます

大阪大学環境方針に基づき、環境への影響が大きいと考えられる項目に対し、環境配慮の計画の策定が望まれ ます。2007年度は下記の表に記載している内容について、取り組みを行いました。環境方針を計画的に達成 するため、項目や目標について、適時見直しを行い、環境保全に取り組んでいきます。

■2007年度の環境目標と実績

環境方針	項目	目標	実績等	掲載ページ
1、法律等の遵守	産業廃棄物処理	マニフェストに基づく 管理の徹底	適正に実施	P10-P11
	化学物質の取り扱い	薬品管理システムの 運用の促進	薬品データベースの更新	P12
	アスベスト対応	吹付け材の実態調査 および除去	実施済	P12
	PCB対応	適切な保管・管理	大阪府へ届出済	P12
2	エネルギー使用量	電力使用量の前年度比 床面積原単位1%削減	豊中 1.5%増 吹田 0.2%減 箕面 –	P8
2、環境負荷低減	グリーン購入推進	特定調達物品の目標 100%		
	廃棄物リサイクル	一般廃棄物の リサイクル率向上	豊中 38.7%(+2.1%) 吹田 39.9%(+3.5%) 箕面 15.2%(–)	P10
ナビリティの実現の、キャンパス・サステイ	地域社会との連携	地域と協力して環境保 全に関する活動を行う	キャンパスデザインプロジェクト	P17
4、環境マネジメント	大学構成員(教員、 職員、学生)の 意識向上	学内への情報発信	大阪大学環境報告書2007の公表 環境安全ニュースの刊行 環境月間講演会の開催 省エネ推進会議	P14
5、 周辺地域への情報 周辺地域への情報 周辺地域への情報 公開 公開 の地 共域 有 の		周辺地域への情報発信	大阪大学環境報告書2007の公表 大阪大学公式HPの随時更新	_

環境へ与える影響を把握し、 環境負荷削減に取り組んでいます

大阪大学では環境負荷の削減を重要課題と位置づけ、 その基本となる環境負荷データの収集を行っています。



INPUT

エネルギー投入量



電力使用量 200,020MWh ガス使用量 8,123+m³ ガソリン購入量 2,917 £



紙使用量 371t

水使用量

1,258↑m³

OUTPUT



CO2排出量

88.422t-CO2

廃棄物排出量



事業系一般廃棄物 産業廃棄物

2.782t 5,734m³

特別管理産業廃棄物

688t



排水量

1,204+m³

省エネルギーと 地球温暖化防止への取り組み

大阪大学では、エネルギー使用量の削減による 地球温暖化防止に努めています。



電気使用量削減のため 全学的な省エネ活動を行っています

大阪大学では、教育研究環境の質を低下させずに無 駄を排除する省エネ活動を推進し、エアコンの適切な 温度設定やこまめな消灯を始めとした取り組みを全学 的に広め、大学構成員全体で省エネ意識を高めていま す。しかし、2007年度の電力使用量は2006年度に 比べ、吹田地区・豊中地区共に1~2%増加しました。 理由としては、記録的な猛暑および冬の気温降下によ り空調の使用量が増加したことが考えられます。

2007年7月より大学ホームページに「週間でんき 予報」を掲載しました。予報は、過去の電力データ及び 予想最高気温を参考にして算出した一週間の予想電 力量を掲載し、「ワニ教授」が様々な表情で節電を呼び かけています。



大学教育実践センターのキャラクターとしておなじみの「ワニ教授」

電力使用量合計 吹田 使用量 — 原単位 箕面 使用量 ─ 原単位 (MWh) 200,000 196,341 193,795 194.658 184,763 32,802 34 382 33,398 31.867 (kWh/m²) 150.000 • • 300 281.5 60.993 163,943 161,260 100,000 • • 200 158.0 155.1 156.7 155.6 152.3 50.000 • · 100 2004 2005 2006 2007 (年度)

省エネルギーの推進の一環として、夏期一斉休業を呼びかけ、2007年度は15部局にて実施されました。



省エネ活動により ガス使用量も削減しています

2007年度のガス使用量は2006年度に比べ、豊中 地区および吹田地区共にわずかではありますが、減少 しました。

ガスは空調に使用されている割合が大きく、全学的 な省エネ活動の取組の成果が現れていると考えてい ます。





天然ガス車の導入などで、 ガソリン購入量を削減しました

2007年度のガソリン購入量は2006年度に比べ、 約280 ℓ 減少しました。

ガソリン車に比べCOz排出量が少ない天然ガス車 の導入や、キャンパス連絡バスの利用促進といった努 力の効果が現れ、ガソリン購入量は着実に減少してい ます。



天然ガス供給装置

(() 10,000 • 9 249 5.000 • 3,853 3.197 2,917 2003 2004 2007 2005 2006

(年度)

● ガソリン購入量

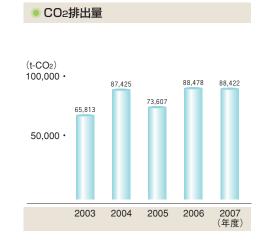


温室効果ガス排出量削減に 取り組んでいます

2007年度の温室効果ガス排出量は2006年度に 比べ減少しました。

2007年度は、猛暑の影響等により電力使用量は増 加しましたが、電力会社のCO2排出係数*が減少したこ とにより、温室効果ガス(CO2)排出量は減少しました。

また、2007年度には2008年度からの「環境配慮 契約法」に基づく温室効果ガス等の排出の削減に配慮 した契約(環境配慮契約)の実施に向けた一般競争入 札を行うための基準を定めました。





電力のCO2排出係数/使用した電力によるCO2排出量を算出するための単位電力量当たりの係数。 本報告書では、電力会社が毎年度公表する、販売電力量当たりのCO2排出量を採用しています。

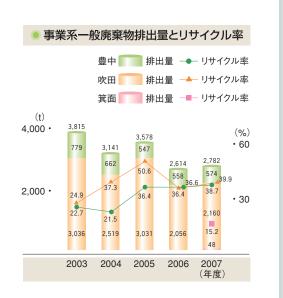
廃棄物削減への取り組み

分別の徹底とリサイクルにより廃棄物削減に取り組んでいます。



廃棄物排出量を削減及び 再資源化に取り組んでいます

廃棄物量の減量に取り組んでいますが、2007年 度の一般廃棄物量は2006年度に比べ、豊中地区で 3%・吹田地区で5%増加しました。しかし、再資源化 が可能な廃棄物についてのリサイクル率は共に増加 しており、大学として積極的に資源の有効活用に取り 組んでいます。





産業廃棄物についてもマニフェストの 交付状況を報告しました

2007年度の産業廃棄物排出量は2006年度に比 べ、吹田地区・豊中地区共に横ばい状態でした。

また「廃棄物処理法」に基づき、2007年度に交付 された、マニフェストの交付等の状況を大阪府知事へ 報告しています。





特別管理産業廃棄物排出量は 14t減少しました

2007年度の特別管理産業廃棄物排出量は2006 年度に比べ、約14t減少しました。

実験研究活動に伴い、廃酸や廃油等の廃棄物が排出 されていますが、関係法令に基づき適切に処理を行っ ています。





感染性産業廃棄物 (特別管理産業廃棄物)も 適正な管理と処理を行っています

2007年度の感染性産業廃棄物排出量は2006年 度に比べ、約195t増加しました。大阪大学では、医療 活動に伴う医療系感染性廃棄物や実験・研究に伴う感 染性廃棄物が排出されます。感染等の危険性があるこ れら廃棄物についても関係法令に基づき、厳格な管理 と適正な処理を行っています。



化学物質の適正な管理

大阪大学では法に基づき、化学物質を適正に管理するとともに 排出量削減に努めています。



PRTR法*に対応した化学物質の 排出量把握と届出を行っています

大阪大学では関連法令に基づき、化学物質の排 出量を把握し公表を行っています。自主管理を徹底 するとともに、地域の環境リスク軽減に努めています。

2007年度の化学物質排出量・移動量は表の通 りです。

■届出化学物質とその排出量・移動量・取扱量(有効数字2桁)

(kg)

		豊中キャンパス			吹田キャンパス		
PRTR法政令番号		95	145	227	12	95	145
化学物質名		クロロホルム	ジクロロメタン	トルエン	アセトニトリル	クロロホルム	ジクロロメタン
排	イ. 大気への排出	230	230	270	70	570	620
出量	口. 公共用水域への排出	0	0	0	0	0	0
	八. 土壌への排出(二以外)	0	0	0	0	0	0
	二. キャンパスにおける埋立処分	0	0	0	0	0	0
移動量	イ. 下水道への移動	1.3	1.4	2.9	130	2.7	2.7
量	ロ. キャンパス外への移動(イ以外)	1,500	1,300	1,300	2,600	5,600	6,700
取扱量(排出量+移動量)		1,700	1,500	1,600	2,800	6,200	7,300

■薬品管理支援システムの活用

2002年度に導入したOCCS (大阪大学薬品管 理支援システム)への薬品登録数は14万件を超え、 また毒物・劇薬指定令や薬事法の改正に伴い管理 方法を変更するなど適正な薬品管理のために効果 的に活用しています。





アスベストの適正処置を行っています

飛散性アスベストについては、除去などの飛散防 止処置を適切に行っています。また、改修工事など の際は、アスベスト含有の有無を調査し、含有する

場合は石綿障害予防規則(平成17年厚生労働省令 第21号)に基づき、適切に処置を行っています。



PCBは法に基づき適切に 保管・処理を進めます

大阪大学では、PCB(ポリ塩化ビフェニル)を「ポ リ塩化ビフェニル廃棄物の適切な処理の推進に関 する特別措置法(PCB特別措置法)に基づき、特定

の保管場所に適切に保管しています。保管している PCBについては、大阪府へ届出を行い、法律が定め る処理期限までに適切に処理します。



PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) 法/有害性のある化学物質の排出・移動量 を把握、集計し、公表する制度

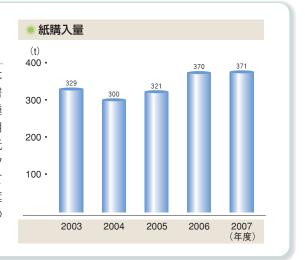
省資源への取り組み

大阪大学では環境保全のため、省資源活動に積極的に取り組んでいます。



配布文書の電子化を推し進め、 ペーパーレス化を図っています

2007年度は大阪大学学内専用ポータルサイトによ る事務局から教職員への一般通知を開始し配布文書 の電子化の推進を図り、また昨年度に引き続き、各種 会議資料、報告書等のWEB上で閲覧の推進、コピー用 紙の裏紙使用や両面コピーの利用促進など紙使用低 減に努めています。また2007年度の紙類のリサイク ル率は98.1%で、環境負荷を低減する努力を行って います。結果、2007年度の紙購入量は10月から箕 面地区が加わったにも関わらず、2006年度に比べわ ずかな増加となりました。





さまざまな節水対策により 水使用量削減に努めています

2007年度の水資源投入量は2006年度に比べ、 豊中地区および吹田地区共に10%前後減少しました。 建物の改修に伴い増加している自動水栓やトイレの 擬音装置、節水タイプのフラッシュバルブによる節水効 果や、実験用冷却水の循環冷却装置の導入などの効 果が着実に現れています。





グリーン購入・調達の 100%を達成しています

大阪大学では、環境に影響の少ない製品を優先 的に購入するグリーン購入・調達に取り組んでいます。 調達の推進を図るための方針を定め、目標値には 100%を設定しています。目標設定を行う品目に ついての調達実績は2007年度も100%を達成し

ており、可能な限り環境への負荷の少ない物品等の 調達に努めています。

安全・安心への取り組み

大阪大学では、学生や教職員の安全と健康に配慮した 教育環境の整備に努めています。



環境月間における公開の講演会を行なっています

化学物質は人類生活には不可欠なものですが、使い 方を間違えると大きな害を及ぼします。化学物質が起 因となる環境問題はエネルギー問題にも密接に関連 し全地球的な課題です。大阪大学では環境月間(6月)に、 環境問題を専門とする内外の外部講師を招いて、環境 月間講演会を開催しています。講演会は学内のみならず、 市民開放講座として広く近隣社会へも案内しています。 講師:京都工芸繊維大学バイオベースマテリアルセンター教授 小原仁宝先生

演題:近年の環境問題とバイオマス



環境月間講演会の様子



「ゴミ・化学薬品の廃棄及び実験上の 安全に関する説明会」を開催しました

昨今のゴミ置き場及び実験中の事故発生を受け、 事故再発防止と安全意識高揚を目的に理学研究科に おいて以下の内容で説明会が開催され、約200名の 教職員・学生が参加しました。

- (1)安全衛生全般について
- (2)ゴミの廃棄について
- (3) 化学薬品の取扱と廃棄について
- (4)実験上の安全に関して



説明会の様子



▶安全・安心な教育・研究環境整備のため | 耐震改修を実施しました

新耐震基準(昭和56年建築基準法改正)以前に建 設された建物で、耐震性能が劣ると判断された建物 について、第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画 (文部科学省)において示された整備方針に基づき、 耐震改修整備を進めています。

2007年度は体育館・文法経本館・理学部本館・産 研第1研究棟の耐震改修を実施し、安心・安全な教育・ 研究環境の整備に努めています。



体育館 改修後



吹田キャンパスで防災訓練が実施されました

2007年度大阪大学防災訓練が実施されました。 放射性物質を含んだ廃液が漏洩するという事故を想 定し、学内関係部署への緊急連絡、汚染区域の特定及 び除染、事故現場付近の通行車両及び歩行者の通行 制限等の訓練を行いました。

当日は、見学者も含めて約70人の参加がありました。



汚染区域の除染作業の様子

教育·研究·課外活動

大阪大学では環境に関する教育・研究・課外活動に力を入れています。



適正な実験系廃液の処理を行っています

大阪大学では研究・教育などの活動により排出され る廃液を厳格に処理しています。有機廃液は化学的性 質により4種類に分けて分別回収し、定期的に(毎月1回)、 専門の業者に委託し適正に処理しており、環境への排 出を最小限に食い止めるように努力しています。無機 系廃液は定期的に(年10回)回収し、吹田地区に設置 されている無機廃液処理施設で処理しています。また

処理施設は学内学生へも 授業の一環として見学解 放しており、教育面におい ても活用しています。



無機廃液処理施設見学の様子



「キャンパスに咲く花 阪大吹田編」が刊行

植物のことをもっと知りたいという学生の要望に 応えるために2001年度より始まった基礎セミナー 「植物を知り、植物に学ぶ」の成果をまとめた本『キャ ンパスに咲く花 阪大吹田編』(福井希一・栗原佐智子 編 発行:大阪大学出版会)が刊行されました。

本書にはキャンパスマップを掲載し、学内外の方を 問わず、いろいろな方々にキャンパス内を散策してい ただき、どのあたりにどの ような花が咲いているい るか、発見し楽しんでいた だける内容となっています。





野外ワーク風景



環境保全活動に取り組む学生サークル(GECS)

2003年に旧大阪外国語大学で発足したサークル (GECS)は、「みんなの環境意識と行動を変えよう」 をモットーにキャンパス内外で啓発活動に取り組んで います。2007年度の主な活動は、教科書リユース市、 リサイクル可能な弁当箱ホッかるの回収率をあげる ためのホッかる通信発行、夏祭り·間谷祭でのゴミ分

別指導(ゴミナビゲーション)、同祭りでのリユース食器・ 間伐材割りばしの導入・使用済み割りばしのリサイク ル工場への郵送、間谷祭でのエコカフェ出店、箕面川 での清掃活動(箕面クリーンさんぽ隊)、両面印刷推 進(ペーパープラン)、勉強会、エコ宅遅便*などです。





エコ宅遅便/毎年祭りで回収した割りばしを送っている愛知県の工場に、生協で回収した割りばし15 キロを自転車で啓発活動をしながら届けました。郵送の際にCO2を排出するトラックで運ばれること に疑問を感じ、本当のエコを見つめ直すため取り組みました。

学内での取り組み

学部や生協でも独自のさまざまな取り組みを行っています。



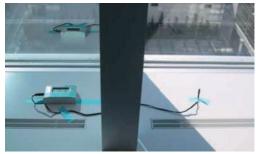
できることから省エネ活動に 取り組んでいます

サイバーメディアセンターでは6月に南側に面した 事務室等の窓ガラス全面に、葦簀を設置し、直射日光 の遮蔽による省エネ活動に取り組んでいます。葦簀が 無い時は、窓ガラスが吸収した輻射熱でかなり暑かっ たのが、葦簀のお陰で輻射熱を感じる事は無くなり省 エネになっています。



(サイバーメディアセンター) 葦簀による直射日光の遮蔽。

基礎工学部では2007年度に遮光フィルターを実 験的に設置し、直射日光の遮光効果を利用者に体験 してもらい、省エネに対する意識アンケートを行いま した。今後の省エネ活動に活かせる事例となってい ます。



(基礎工学研究科) 遮光フィルター設置後のペリメータ部分の 温度測定。



教職員および学生で構内環境美化に 取り組んでいます

敷地内および周辺一帯の通路、排水溝などの落ち葉 拾いや排水溝の土砂上げ、ゴミの収集作業等を部局単 位で教職員及び学生が一致団結して行いました。日ご ろ忘れがちな環境美化に対する意識を再確認するとと もに教職員・学生が快適なキャンパスライフを送れる よう、美化意識の高揚を図る機会となっています。



構内環境美化の様子

産業科学研究所



生協ではペットボトルや紙コップなど ワンウェイ容器の回収を推進しています

大阪大学生協では、ワンウェイ容器の回収に取り組ん でいます。デポジット制を導入しているペットボトルの 2007年度の回収率は53%と2006年度より4%増 加しました。また紙コップの回収率は84%と2006年 度と同程度となりました。PETボトルリサイクル推進協 議会によれば、国内の回収率は60%を越えており、これ に追いつくことを目標に、また紙コップについては回収 率の低い場所での個別のプロモーション等を行うこと で回収率の増加を目指して取り組みを継続・発展してい きます。



デポジット案内ポスター

地域社会への取り組み

開かれた大学をめざし、地域社会との連携を深めています。



☆ 法に基づく実験系排水の水質検査を行っています

大阪大学では毎年、大学から排出される、実験系廃 液を含む排水について豊中、吹田それぞれのキャン パスについて、水質汚濁防止法などの法律、条例に沿っ た水質検査を行なっています。測定項目は人の健康 に係る被害を生ずるおそれがある物質(有害物質)や 水の汚染状態を示す項目(生活環境項目)、PRTR届 出対象物質などについて検査しています。豊中地区 については豊中市が行なう立入検査(年4回)に加え、 大学による自主検査(年4回)を計8回行なっています。 吹田地区については吹田市が行なう立入検査(年6回) に加え、自主検査(年6回)を計12回行なっています。



排水自主検査の様子



c キャンパスデザインプロジェクト

キャンパスデザインプロジェクトはキャンパスや周 辺地域のフィールドワークを通して、生活環境や知的 創造環境としての個性や問題を読みとりながら、魅 力的な環境を継承したり、創り出していくためのデザ イン活動を行う授業です。地域住民やサークルなど、 様々なグループとも協働し、キャンパスと地域におけ る人間環境系の中に浸透していくことの楽しさを体 感することを目的としています。

取り組んだプロジェクトのひとつ『グランド東口の バリアフリー化』ではキャンパスデザイン室と施設部 の職員・そのサポーター、柴原街づくり協議会の地域 住民とのジョイントにより、豊中キャンパスのグランド 東口のバリアフリー・グランドと幹線道路を隔てる傾 斜地の公園化など「アカデミック街道沿いの環境形成」 についてワークショップを開催し、今後の整備に向け て様々な意見交換ができました。



東口と対面する公園



アカデミック街道沿いの環境形成



幹線道路で東口と公園が隔絶

おわりに



国立大学法人大阪大学 副舞西田正吾

「環境 という幅広い課題に向かい 着実な努力を進めていきます

大阪大学における環境に関する取り組みをまとめた環境報告 書2008を作成致しました。今回が3回目の報告書の公表となり、 少しずつではありますが、大学構成員における環境への意識が 確実に上がっていると感じられます。

温暖化防止やCO2削減、リサイクル、省エネ、エコといった言葉 が一般的なものとして使用されるようになり、日常生活の一部に 溶け込む程になっています。しかしながら、快適性や利便性を手 放せず、意識はしているけれどもなかなか実践できないという方 も多いのではないでしょうか。大阪大学では「教育研究活動の質 を低下することなく無駄を省く」ことをモットーに、必要なものを 保ちつつ不要なものを省くといった取り組みを続けています。誰 でもできることを誰もが実行できる。そのような環境作りが大切 なことであると考えます。

大阪大学環境報告書は、本学の環境保護推進活動の実績を広 く公表するだけでなく、環境保護推進のためのツールとして活用 できることを目指しています。ゆっくりでも確実に目標を達成で きるよう、大阪大学の環境に対する考え方や取り組み状況につい て今後も継続して報告を行っていきます。

■環境省「環境報告ガー	イドライン(2007年度版)」対照表	
		掲載ページ
基本的情報:BI	BI-1 経営責任者の緒言	P4
	BI-2 報告にあたっての基本的要件	
	BI-2-1 報告の対象組織·期間·分野	P2·P3
	BI-2-2 報告対象組織の範囲と環境負荷の捕捉状況	P2·P3
	BI-3 事業の概況 (経営指標を含む)	P3
	BI-4 環境報告の概要	
	BI-4-1 主要な指標等の一覧	P6·P7
	BI-4-2 事業活動における環境配慮の取組に関する目標、計画及び実績等の総括	P6
	BI-5 事業活動のマテリアルバランス (インプット、内部循環、アウトプット)	P7
環境マネジメント指標:MPI	MP-1 環境マネジメントの状況	
	MP-1-1 事業活動における環境配慮の方針	P5、P18
	MP-1-2 環境マネジメントシステムの状況	P5
	MP-2 環境に関する規制の遵守状況	P12、P17
	MP-3 環境会計情報	_
	MP-4 環境に配慮した投融資の状況	_
	MP-5 サプライチェーンマネジメント等の状況	_
	MP-6 グリーン購入・調達の状況	P13
	MP-7 環境に配慮した新技術、DfE等の研究開発の状況	_
	MP-8 環境に配慮した輸送に関する状況	_
	MP-9 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	_
	MP-10 環境コミュニケーションの状況	P17
	MP-11 環境に関する社会貢献活動の状況	P14~P17
	MP-12 環境負荷低減に資する製品・サービスの状況	_
オペレーション指標:OPI	OP-1 総エネルギー投入量及びその低減対策	P7∼P9
	OP-2 総物質投入量及びその低減対策	P7、P13
	OP-3 水資源投入量及びその低減対策	P7, P13
	OP-4 事業エリア内で循環的利用を行っている物質量等	_
	OP-5 総製品生産量又は総商品販売量	_
	OP-6 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	P7, P9
	OP-7 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	_
	OP-8 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	P12
	OP-9 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	P7、P10·P11
	OP-10 総排水量等及びその低減対策	P7
環境効率指標:EEI	環境配慮と経営との関連状況	_
社会パフォーマンス指標:SPI	社会的取組の状況	P14~P17

編集後記

大阪大学の2007年度の環境保全活動を紹介するため、 大阪大学環境報告書2008を発行しました。

報告書の作成にあたっては、より多くの皆様に大阪大学の 取り組みを理解していただけるよう、親しみやすい紙面を目 指しました。皆様のご意見やご提案を参考に、今後も見直しを 重ね、報告書だけでなく環境保全活動の質を高めることがで きるよう、継続して取り組みを進めていきます。

本報告書の作成にご協力いただきました学内外の関係者 の皆様には、この場を借りて心よりの感謝を申し上げます。

大阪大学環境報告書2008

発行年月 2008年9月

発 行 国立大学法人大阪大学 集 大阪大学施設部管理計画課

T565-0871

大阪府吹田市山田丘1-1

Tel 06-6879-7137 Fax 06-6879-7138

Email sisetukanrihozen@ns.jim.osaka-u.ac.jp



₫ 待兼山修学館

表紙の写真は豊中キャンパスにある待兼山修学館です。 昭和6年に大阪帝国大学医学部附属病院の石橋分院本館として建てられ、その後医療技術短期大学校舎、医学部保健学科校舎として利用され、平成19年8月に改修を行い、総合学術博物館として再生しました。待兼山修学館は昔からその景観美を歌われた待兼山の山腹に建ち、丘の緑と歴史を背景にして潤いのあるすぐれた景観

を形成し、市街地にも近く市民に親しまれてきました。学校建築あるいは病院建築としても歴史的価値の高い建物であり、大阪大学の形成・発展を物語る上においても欠かせない建物であります。本施設は平成20年3月に登録有形文化財(建造物)に登録されました。

